

震災直後の釜石でレッカー作業

兵庫県自動車修理業・レッカー事業協同組合



こちらは、兵庫にあるレッカー業者団体のひとつ、兵庫県自動車修理業・レッカー事業協同組合による震災直後に行われた活動である。震災発生当日の3月11日、出動協力要請を受けた兵庫県警災害対策本部広域援助隊を追走する形で先発隊2社5人が岩手県釜石市へ急行、13日から人命捜索補助と進入路確保を行った。県警からは「レッカー車を用意してほしい」との要請から、中型レッカー車をメインとする編成となった。その後15日に後発隊である組合員4社が到着、交代した。先発隊のレポートを紹介する。



上/出動したタダノOC-200MWクレーン付レッカー車(手前)と、センチュリー716/FⅢTレッカー車(奥)。先発隊はこのほか、ジャーダン小型レッカー車、クレーン付車載車、現場偵察用スズキ・ジムニーの計5台で各1名ずつが乗車した。



上/空いたスペースに食料や飲料水、燃料さらにオムツなど救援物資を満載したセンチュリー716/FⅢT。
左2点/被災地・釜石の様子。市内中心部も津波に襲われ、消防車などが押し流されていた。



陸路24時間以上をかけた12日夜、釜石の兵庫県警災害対策本部広域援助隊との合流地点に到着。数度の大きな余震に悩まされる中、翌13日から作業を開始した。同組合の中村修氏から寄せられたレポートは、「最初に担当した現場は、大きな鉄橋に丸太や家、車、漁船、ありとあらゆる物が引っかかっていた。OC-120で20フィート超漁船やマイクロバス、乗用車を撤去、広域援助隊の通路確保および人命捜索の補助をし、瓦礫をセンチュリー716のウインチで引っ張り出すなど、今までやったことが無い作業を色々やった」と記している。先発隊はその後、市内中心部へ移動、人命救出作業を進めている自衛隊と土木業者を支援すべく、自動車の撤去活動を行った。車両の移送先を市災害対策本部と協議の上確保したが、レッカー中も余震や津波警報が頻発し、そのたびに退避しなければならないなど、作業が捗らなかったという。翌14日も車両撤去を開始、岩手県からも車両撤去要請を受けて、乗用車から大型バス・消防車・ダンプカー等を搬送。地元のJAFとの共同作業も行われた。先発隊最後の15日も、中型レッカー車の強力な作業力を発揮して、被災した車両を多数搬出した。後発隊と合流、その後を引き継いでようやく帰路についた。17日には市内中心部のクルマがほぼ排除された。レポートは最後に「レッカー事業者にもできることが沢山あり、やらなければいけないことだと思った。災害活動には組合の支援や公的機関の支援も不可欠だった」と締めくくられている。

